**安井志郎元幹事長（第６期代表）とのお別れに際して**

新コロナウイルスの蔓延で鬱陶しい日々を過ごしている中、かねてから病気療養中でした**安井志郎**さんが、昨日逝去されたとの連絡が３月２５日奥様よりありました。

安井さんのご冥福をお祈りいたします。

ご逝去日：令和2年（2020年）3月24日

告別式等は下記の通りでした。

喪　　主：安井多美子様（奥様）

告別式　：令和2年3月28日　午前11時30分より　　（神式で行われました）

斎　　場：大田区 平和の森会館　　東京都大田区平和の森公園2-3

安井志郎さんはIIR創立50周年記念事業の折、IIR　OB・OG会幹事長として、石原渥勇会長（故人）、

西室泰三実行委員会委員長（故人）と共に、種房・安井ラインで進められました。　詳しくは記念誌

「50年の軌跡」（OB・OG会　ホームページ・HOME面に掲載）をご一読ください。

昨3月28日、11時半から2時過ぎまで、安井志郎さんの告別式に参列しました。

葬儀は平和島の平和の森公園の斎場で、神式でとり行われました。新コロナウィルス蔓延と重なり、

IIRの友人達の参列はかないませんでした。

小生は、安井君の安らかな寝顔に花束を捧げ、お別れに感謝の念を込めて

「慶應義塾の友人達の心が集い、君の魂には心安らかな旅が待っている」

と述べました。　昼食会がありました。

小生は奥様（多美子さん）と2人の息子さんと4人のテーブルでお話をしました。

食事の後で火葬場に移動し、骨を拾いました。　参列者の安心が感じられて葬儀が散会しました。

以上ご報告いたします。　合掌

　　　　　肥田 良夫（第6期）

**安井志郎さんへのお悔みとして以下のメッセージを受信しました**。（敬称略、順不同）

IIRの発展にはいった時期に、会をよくまとめていただいて、発展させてくれたことを、今でも感謝

しています。「実業界からの寄付だけでは継続は難しい」、との問題を解決する意味でなんだかんだの後、やっと自治会に入って、交換留学生の費用にめどをつけ、安定的な資金調達も備えた第二段階へ、

そして安定、拡大へと尽力くださったことを、思い出しては感謝しています。

ご冥福を祈ります。お互い年だね。　皆さん、お元気にお過ごしください。

　種房 俊二（第4期）

安井さんのご逝去のお知らせをありがとうございます。

「頑張り屋先輩、励みの言葉を貰い、優しい笑顔、本当に心優しい、いい先輩でした！」との後輩の　言葉に心から共感し、小生からは「尊敬するつりあい感覚の友人」の存在感と喪失感を添えさせて頂きます。　安井さんのご冥福をお祈りします。　　合掌

肥田 良夫（第6期）

安井君のご逝去を知り、大変驚いています。

私の慶應での生活は、教室より国際関係委員会（IRC）の部室に行って、安井君を始め部員の皆と過ごすのが　　常でしたから、当時を懐かしく思い出します。

安井君のご冥福を心からお祈りします。

思えば会の主な目的であった年間交換留学生の制度は、先輩のご努力で全塾自治会の下部組織に入れたことで費用面の問題は解決し、会の名称も国際関係会（IIR）となりました。私たちの世代は引継いだプロジェクトを安定・発展させることと、新しい企画の立案と実行でした。詳細は省きますが、代表の安井君を中心に熱い議論を重ねたのが、昨日の様に思えます。

私は卒業後、商社貿易業務を経て、現在は地場産業の経営を致しておりますので、安井君とも疎遠になっておりました。　訃報を聞きとても残念です。　　皆様のご健勝を祈っております。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　江崎 晢（旧姓 森：第6期）

昨年、リハビリ中にお会いしてからずっと心配しておりました。頑張り屋先輩ですからきっと回復に向かうと信じていました。“お前も人生ずいぶん頑張っているな！“と幾度か励みの言葉を貰いました。

あの優しい笑顔が浮かびます。本当に心優しい、いい先輩でした！

どうぞ心安らかにお眠り下さい。（合掌）

亘理 泰（第7期）

安井さんの突然のご逝去の報に接し驚いています。安井さんは小生の２年先輩のIIRの代表であり、学生時代からよく存じ上げており、５０周年の時に呼び出されて小生がOB/OG会に入ることになった方です。IIRには珍しい親分肌の方でした。　心からご冥福をお祈り申し上げます。

中江 隆耀（第8期）

安井志郎先輩の告別式にご参列いただきお別れの様子をお知らせ戴き感謝申し上げます。

安井志郎先輩はIIR創立50周年記念催事の折、幹事長として大いにご尽力戴いた事、

思い出しております。

OB・OG会が現在もなお存続出来ているのは、安井先輩のご尽力のお蔭です。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。　合掌

　　岩田 紘行（第13期）

安井様のご逝去の報に接し、大変残念で悲しく思います。

小生は安井様にお声かけて頂き、安岡美佳君と50周年の司会をしたのを覚えています。

どういう経緯で小生のところにお越しになったのか、今となってはよく覚えておりませんが、

そのご縁がなければ、OB・OG会の運営に携わることもなかったでしょう。

長い事お会いしておりませんでしたが、お優しい、誠実なお人柄は良く瞼の裏に焼き付いております。

どうか安らかにお休みくださいませ。

　安倍 宏行（第23期）

安井先輩の突然の訃報に接し、大変な淋しさを禁じえません。

先輩は諸先輩の中でも“一際泰然自若とした大人の風格の先輩”というのが初対面での印象でした。心穏やかで、常に笑顔で人に接し、誰に対しても公平で隔てなく、とても信頼のできるお人柄でした。

私個人にとっては、学生時代においてはIIRの活動の中で再三貴重なアドバイスや温かいバックアップを頂き、とても頼れる存在でした。私が名古屋で就職することを決意する動機となったのは、先輩がすでに名古屋で頑張っておられたからでした。社会人になってからも、先輩が名古屋在勤の間、幾度となくお会いし、励ましの言葉やら　社会人としての心構え等お話をいただき、大変勇気づけられました。

　この度の先輩の逝去で、再び親しくお話しする機会を失ったことはまことに残念でなりません。永いこと大変　　　お世話になり有難うございました。

改めて敬愛する先輩のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。　　　合掌

　　　鳥飼 直（第7期）

安井志郎様の訃報に接し心からお悔やみ申し上げます。

暫く前から重篤な状態だと聞き及んでいましたが残念です。

数年前から不自由な療養生活の中を私の版画展に来て頂いて

IIRの仲間と共に会食しながら談笑したのが昨日の事のように思われます。

IIR時代からの良き先輩との別れの場に赴く事が出来ず申し訳ありません。

　　　六車 幸紀（第7期）

奥様から連絡を頂き、お見舞いに伺ったのが亡くなる1週間前の3月17日でした。何とかもう一度元気になって欲しいと願っておりましたが、この時が最後のお別れになってしまいました。

思い起こせば、IRC（IIR）の先輩として、学生時代のみならず社会人になってからも、折々にお会いし、本当に　永い間お世話になりました。常に本物志向で、物事の本質を捉えて価値判断される姿勢に、いつも先輩の大きさを感じておりました。本当に寂しいお別れですが、さらぬ別れでもあります。

心からご冥福をお祈りいたします。

　　小笠原 正文（第7期）

安井様のご逝去について、お知らせ下さり有難うございます。大変残念ながら、新型コロナヴィールス蔓延で　　なるべく自宅に蟄居していようという状態ですので、ご葬儀には伺えません。

一人で静かにご冥福を祈りたいと存じます。

さまざまなことが思い出されます。いつも落ち着いていて、皆からお父さんのように慕われていた方、と言う印象を　　持っています。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　白井 堯子（第7期）

安井さん、前回お会いした時に体調が良くないように見受けられたので心配していましたが、残念な結果になってしまいました。ご冥福をお祈りします。

林 壽一（第7期）

安井先輩のご逝去の連絡ありがとうございました。28日のご葬儀にはぜひ参列させて頂きたいと思っておりましたが、叶わぬため、弔電を打たせて頂きました。

石川 通敬（第7期）

安井さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

故人には霊前にて直接お別れを告げたいと思いますが、足腰が不自由にて遠出が難しく

誠に残念ですが失礼させて頂きます。

　猪野 章（第7期）

安井志郎さんご逝去のお知らせをいただき、心から哀悼の意を表したいと思います。

ご葬儀にはうかがえませんが、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

西田 光代（第8期）

安井さんの訃報を聞き、あの温情溢るる、大人然とした先輩を思い出しております。体調がすぐれない、とは聞いていましたが、こんなに早く逝かれるとは。入学以来、先輩にはなにかとお世話になりました。先輩からは着飾ることなく、物事の本質をとらえた、思い遣り深いアドバイスを頂き、感謝、尊敬しておりました。晩年になって先輩から送って頂いた「老人の心構え」についての自著にも人柄が表れていますが、まだまだご指導願いたい方で、惜しまれてなりません。安井さん、本当にありがとうございました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。　合掌。

太田辰幸（7期）

安井志郎さんへのお悔やみをありがとうございます。  
人の輪を作り輪のために活動し、大きい存在感を持つ安井さん、　喪失感も大きいです。  
先に旅立った安井さんに、友人達と共に感謝の念を捧げます。　合掌

編集: 6期　肥田良夫、7期　小笠原正文、13期　岩田紘行